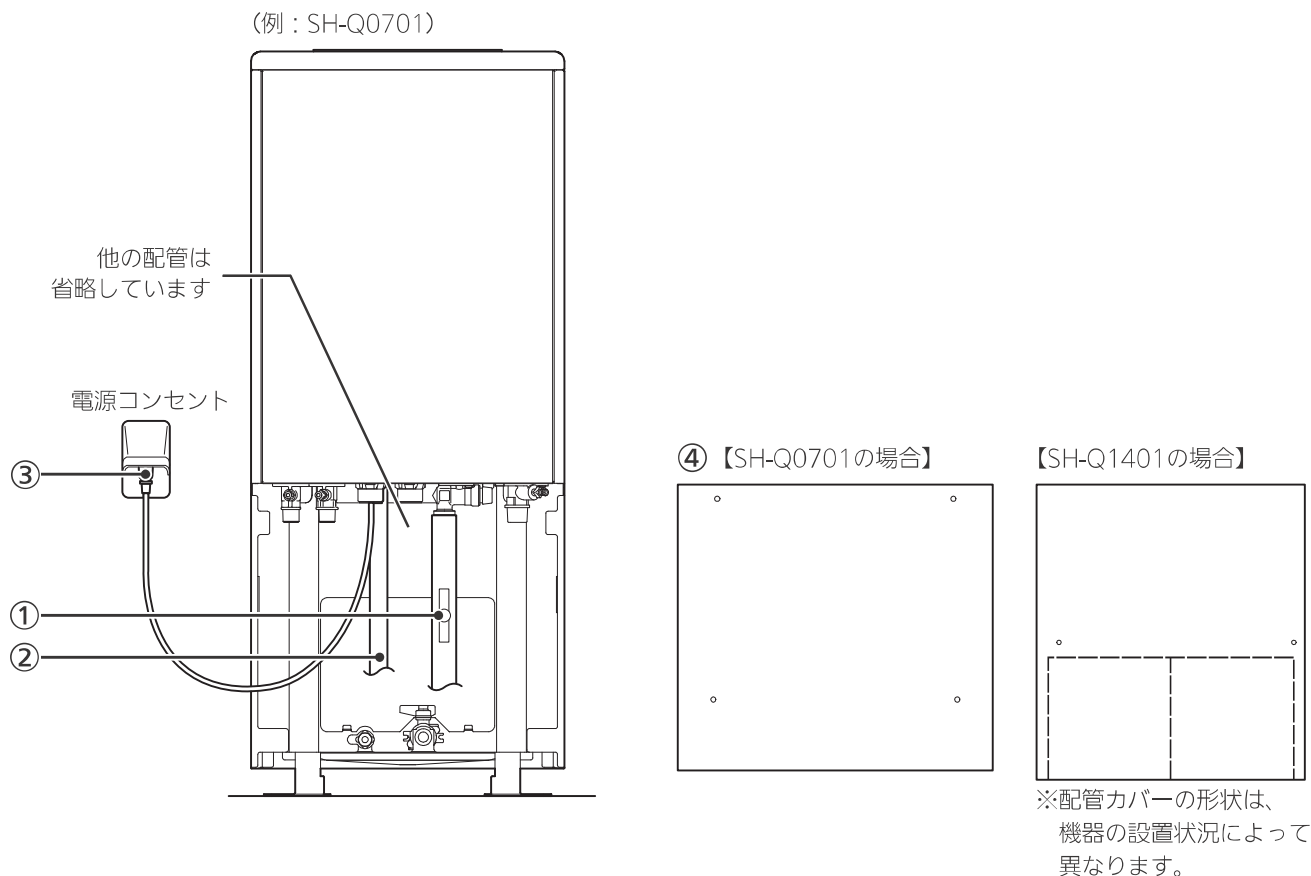


## 各部のなまえとはたらき(貯湯ユニット)

●イラストは施工例です。配管の形状、給水元栓の位置など実際と異なります。



- ① 給水元栓

---

- ② オーバーフロー配管  
内部の圧力によって貯湯タンクからあふれた水を排出します。

---

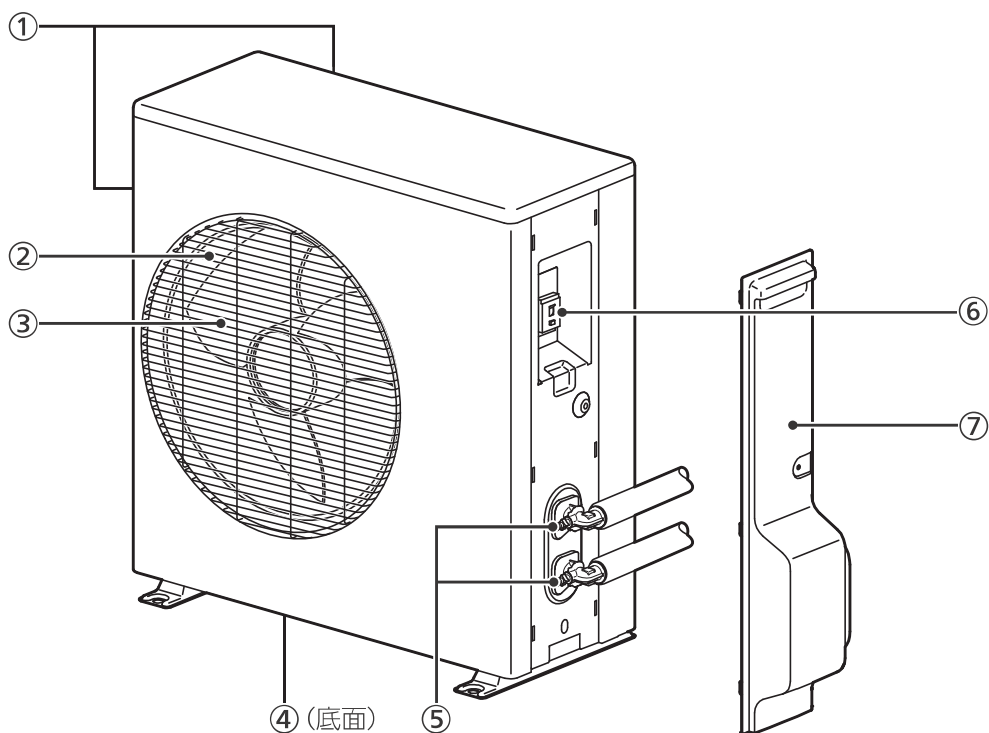
- ③ 電源プラグ

---

- ④ 【配管カバーがある場合】  
配管カバー  
お手入れや水抜きの際に、ネジを外して開けてください。  
※配管カバーを外したあとは、正しく取り付けてください。

# 各部のなまえとはたらき(ヒートポンプユニット)

●イラストは施工例です。配管の形状など実際と異なります。



① 空気吸込口(左側面・背面)

② 空気吹出口

③ ファン

④ ドレン口(底面)

凝縮水を排出します。  
※ドレン配管を接続している場合があります。

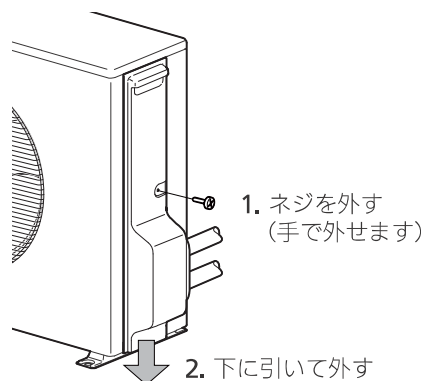
⑤ 水抜き栓

⑥ 漏電ブレーカー(P2)

⑦ 配管カバー

点検や水抜きの際に、ネジを外して開けてください。

[配管カバーの外しかた]



※配管カバーを外したあとは、上記と逆の手順で元どおり正しく取り付けてください。

## 凍結による破損を予防する

- あたたかい地域でも、機器や配管内の水が凍結して機器が破損することがあります。破損事故を予防するために、以下をお読みいただき必要な対策をしてください。
- 凍結により機器が破損したときの修理は、保証期間内でも有料になります。
- 機器本体編の取扱説明書も併せてお読みください。

### 対策

#### 気温が下がってきたら自動検知貯湯ユニット内のお湯の循環で凍結予防をします



※給水・連結配管や、給水元栓などの凍結は予防できません。必ず保温材または電気ヒーターを巻くなどの地域に応じた処置をしてください。(わからないときは、販売店に確認してください)

### こうしてください

- 貯湯ユニットとヒートポンプユニットの電源(P2)を必ず入れたままにしておく  
給湯機器の電源プラグは差したままにしておく(ブレーカーも「切」にしない)  
※電気を供給しておく、貯湯ユニットのポンプ・凍結予防ヒーターや、ヒートポンプユニットを運転させて、機器内の凍結予防をします。
- このときリモコンに凍結予防運転中マークを表示します。(ポンプの運転音(ウーン)がします)  
※給湯機器の凍結予防運転中は、リモコンに炎マークを表示する場合があります。

### 水抜き

- 上記の対策をしても凍結するおそれのあるとき
- 長期間使用しないとき



大寒波が到来しそうなときや、長期間使用しないときは、貯湯ユニット・ヒートポンプユニットの水抜きをお願いします。

水抜きの方法は 右記の手順でおこなってください

凍結したまま使うと故障の原因に！

## 凍結して、お湯や水が出なくなったら

### こうしてください

- 機器本体編の取扱説明書に従い、処置をする  
※貯湯ユニットの給水元栓が回せないときや、回るときの水が出ないときは、機器本体編の取扱説明書の「凍結による破損を予防する」をご確認いただき、「給水元栓」を「貯湯ユニットの給水元栓」と読み替えて処置をしてください。

## 長期間使用しないとき(水抜きのしかた)

- 長期間使用しないときや、不在時に凍結のおそれのある場合は、以下の方法で貯湯ユニット・ヒートポンプユニットの水抜きをしてください。
- 水抜きを正しくおこなわないと、機器の故障の原因になります。
- 水抜き栓などの位置は、P13のイラストを参照してください。

### 手順

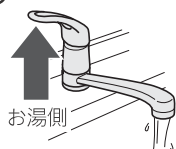
1. リモコンに、3桁の英数字が点滅していないことを確認する
  - 点滅している場合は、P26「リモコンに3桁の英数字が点滅しているとき<故障表示>」を確認し、必要な処置をしてください。
2. 給湯機器の電源プラグが電源コンセントに差し込まれているか(またはブレーカーが「入」になっているか)確認し、「自動貯湯」「貯湯予約」「今すぐ貯湯」の設定を「切」または「停止」にする
  - リモコン操作編の取扱説明書の「ユーザー設定」をご覧ください。
3. ON/OFFスイッチを「入」にし、貯湯量表示で貯湯タンクのお湯の量(目盛)を確認する
  - 目盛が0のとき  
→手順4に進む
  - 目盛が1以上のとき  
→貯湯タンクのお湯を使い切ったあと、手順4に進む
4. ①【貯湯ユニットに配管カバーがある場合】  
貯湯ユニットの配管カバーのネジを外し、配管カバーを外す  
②貯湯ユニットの給水元栓を閉める  
(給水元栓の位置→P9)
5. 機器本体編の取扱説明書に従い、給湯機器の水抜きをおこなう
  - このあと、貯湯ユニット・ヒートポンプユニットの水抜きをおこなうため、給湯機器の電源プラグは差したままにしておいてください。また、すべての給湯栓は開けたままにしておいてください。

(つづく)

## 6. リモコンで「貯湯ユニットの水抜き」の設定をする

- リモコン操作編の取扱説明書の「ユーザー設定」をご覧ください。
- 水抜きの途中で、ON/OFFスイッチを「入」にしたり、電源プラグを抜いたり、ブレーカーを「切」にしたりしないでください。
- 排水がはじまったあとに水抜きを中止する場合は、ON/OFFスイッチを「入」にするか、「貯湯ユニットの水抜き」をしない設定にしてください。  
※水抜きを中止した場合、お湯(水)が機器内に残ります。長期間使用しないときや、不在時に凍結のおそれのある場合は、水抜きをやり直してください。
- 約8分(SH-Q1401の場合は約15分)たつと、リモコンで「ピピッ」とお知らせ音が鳴ります。

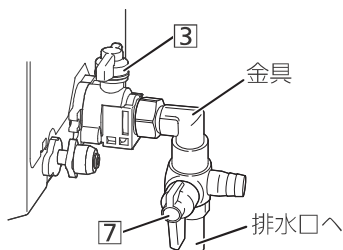
## 7. 台所・洗面所・浴室など、家中のすべての給湯栓を全開にする



## 8. 水抜き栓などからお湯(水)が出るので、容器などを置いて排水を受ける

## 9. ※水抜き栓を開けると、勢いよく水が飛び散る可能性があります。

- ①貯湯ユニットの水抜き栓①、②を左に回して外す
- ②【排水バルブ③の先に金具がついている場合】バルブ⑦が排水口側に向いていることを確認する



- ③貯湯ユニットの排水バルブ③を手前に回して開けて排水する

## 10. ヒートポンプユニットの配管カバーを外す(P10)

## 11. 手順6の操作から約8分(SH-Q1401の場合は約15分)以上経過後、以下の操作をする

- ①貯湯ユニットの水抜き栓④⑤⑥を左に回して開けて排水する
- ②ヒートポンプユニットの水抜き栓(P10)を左に回して開けて排水する
- ③【貯湯ユニットとヒートポンプユニット、貯湯ユニットと給湯機器のあいだの配管に排水バルブがある場合】バルブを回して開けて排水する
- ④約20分そのままにする

## 12. 給湯機器の電源プラグを電源コンセントから抜き(またはブレーカーを「切」にし)、貯湯ユニットとヒートポンプユニットの電源(P2)を切る

ぬれた手でさわらない

## 13. すべての水抜き栓・排水バルブから水が出なくなったことを確認したら、すべての水抜き栓、排水バルブ、家中のすべての給湯栓を閉める

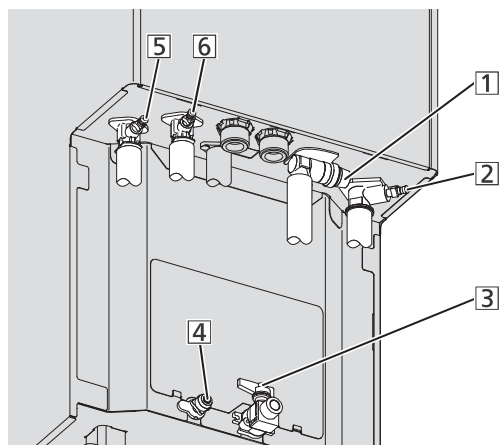
## 14. 【貯湯ユニットとヒートポンプユニット、貯湯ユニットと給湯機器のあいだの配管に排水バルブがある場合】バルブを閉める

## 15. 貯湯ユニット・ヒートポンプユニットの配管カバーを元どおり正しく取り付ける

# 水抜き後の再使用のとき (水張りのしかた)

## 水抜き栓の位置

各水抜き栓は、保温材などで見えにくいことがあります。



水抜き栓(フィルター付き) 1



水抜き栓 2 5 6



水抜き栓 4



この部分を回す

- 水抜き栓などの位置は、P13のイラストを参照してください。

## 手順

1. 給湯機器の水抜き栓がすべて閉まっていることを確認する
2. 【貯湯ユニットに配管カバーがある場合】貯湯ユニットの配管カバーのネジを外し、配管カバーを外す
3. ヒートポンプユニットの配管カバーを外す(P10)
4. すべての水抜き栓・排水バルブ・給湯栓が閉まっていることを確認する
  - 貯湯ユニットの水抜き栓 4 5 6 とヒートポンプユニットの水抜き栓(P10)が閉まっていないと、貯湯中に熱いお湯が出る場合があります。
5. 貯湯ユニットの給水元栓を開ける
6. 貯湯ユニットとヒートポンプユニットの電源を入れ、給湯機器の電源プラグを電源コンセントに差し込む(またはブレーカーを「入」にする)

ぬれた手でさわらない

7. 浴槽の排水栓を抜き、残り湯の水位が循環アダプターより低いことを確認する

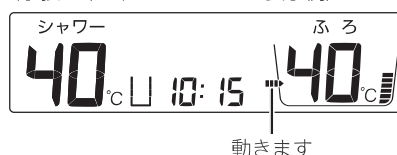
8. ON/OFFスイッチを「入」にして、「貯湯ユニットの水張り」の設定をする

- リモコン操作編の取扱説明書の「ユーザー設定」をご覧ください。

(水張り中の台所リモコンの表示例)



(水張り中の浴室リモコンの表示例)



(つづく)

- 浴槽の循環アダプターから水が出たり止まったりしますが、異常ではありません。
- 【水張り中に、リモコンに「959」「969」が表示された場合】  
給水元栓が開いていることを確認し、ヒートポンプユニットの水抜き栓(P10)を左に回して開け、空気が出てこなくなるまで排水してから、再度手順6以降の操作をしてください。
- 【水張り中に、リモコンに「562」が表示された場合】  
給水元栓が開いていることを確認し、ON/OFFスイッチを「切」にし再度「入」にしてから、手順8以降の操作をしてください。

**貯湯ユニットの水張り中は、その他の操作をしないでください**

その他の操作をすると、貯湯ユニットの水張りは中止され、故障表示「009」を表示する場合があります。

その場合は、いったんON/OFFスイッチを「切」にし、「入」にしてから、「貯湯ユニットの水張り」の設定をやり直してください。(水張りが中止された状態では、機器が正常に運転しません)

**9. 手順8の操作から20分以上経過後、リモコンの水張り中の表示が消えていることを確認する**

- 【リモコンに3桁の英数字が点滅している場合】  
P26「リモコンに3桁の英数字が点滅しているとき<故障表示>」を確認し、必要な処置をしてください。その後、貯湯ユニットの水張りをやり直してください。

**10. 機器本体編の取扱説明書の「水抜き後の再使用のとき」をおこなう**

**11. 貯湯ユニット・ヒートポンプユニットの配管カバーを元どおり正しく取り付ける**

**12. 「自動貯湯」「貯湯予約」の設定を、水抜きをする前の設定に戻す**

- リモコン操作編の取扱説明書の「ユーザー設定」をご覧ください。

**水抜き後はじめての使用のとき、リモコンに以下の故障表示が出る場合**

- 「405」「415」「485」
  - ①給水元栓が開いていることを確認する。
  - ②ヒートポンプユニットの水抜き栓(P10)を左に回して開け、空気が出てこなくなるまで排水する。
  - ③手順8以降の操作をする。
- 「865」
  - ①給水元栓が開いていることを確認する。
  - ②ヒートポンプユニットの電源(P2)を切り、再度入れる。
  - ③手順8以降の操作をする。

**お知らせ**

- 水張り中、お湯を使わなくても給湯機器が燃焼する場合がありますが、異常ではありません。

# 停電時・ガス停止時にお湯を使う(応急運転)

- この機能は、非常時以外にお使いにならないでください。製品の寿命に影響を及ぼすおそれがあります。
- 応急運転に設定しているときは、給湯のみ使えます。(ふろ運転・暖房運転(暖房機能がある場合)は使えません)
- 停電時・ガス停止時にしばらく機器を使用できずに、水が機器や配管に長時間たまっていた場合は、雑用水として使用してください。

## 非常用電源について

### ⚠警告

非常用電源の取扱説明書で、使用方法や注意事項をよく確認してから使用する



必ず守る

使用中に異常な臭気・異常音・異常な温度を感じた場合、または給湯機器が点火しない場合や使用中で消火する場合は、ただちに使用を中止してください。

- 非常用電源から貯湯ユニットまで電源ケーブルを延長する場合は、15A125VでVCT太さ2mm<sup>2</sup>以上の延長ケーブルを20m以内で束ねずに使用してください。電圧降下や延長ケーブルの発熱の原因になります。
- 機器の電源コードや延長コード・コードリールが、パイプシャフト室の扉やドア・窓などに挟まらないように注意してください。
- 非常用電源にハイブリッド給湯機を接続しているときは、その他の電化製品やハイブリッド給湯機の別売品を接続しないでください。
- ポータブル電源を使用する場合は、給湯機器と貯湯ユニットの両方を接続してください。給湯機器のみを接続して使用すると、熱いお湯が出たり、お湯の出が悪くなったりすることがあります。

## 太陽光発電システムの自立運転用コンセントを使用する場合

- 日照量が十分に確保されているときに使用してください。日照量が少なかったり、積雪などにより日光がさえぎられれたりすると、発電量不足になり、応急運転が停止する原因になります。
- 発電している昼間などに給湯やシャワーをご使用ください。夜間は発電ができないため、ハイブリッド給湯機へ電力供給ができず、給湯やシャワーの使用ができません。

## お知らせ

- 非常用電源に接続して応急運転をしている場合、電力不足になり、応急運転が停止することがあります。特にヒートポンプユニットの貯湯運転中は、350～800W(季節によって異なります)の電力を使用します。ご使用の電力量にご注意ください。
- 停電時に凍結のおそれがある場合(P11)、応急運転をすると電気の供給が不安定になり凍結予防運転がはたらかず、ハイブリッド給湯機が凍結するおそれがあります。
- 外気温度が低く、非常用電源の電源供給が不安定なときは、ヒートポンプユニットで貯湯できない場合があります。

(つづく)

## 停電時にお湯を使う

- 非常用電源(P15)が必要です。
- 貯湯タンクのお湯をまず使い、そのあと給湯機器で沸かしたお湯を使います。

### 警告



非常用電源に接続する前に、機器の損傷や水漏れがないことを確認する

必ず守る 思わぬ事故の原因になります。

### 手順

#### 1. 非常用電源から、貯湯ユニット(電源の位置→P2)と給湯機器に電気を供給する

- お使いの非常用電源によっては、電源のつなぎ替えが不要な場合があります。非常用電源の取扱説明書をご確認ください。

#### 2. ON/OFFスイッチを「切」にして、「応急運転」の設定をする

- リモコン操作編の取扱説明書の「ユーザー設定」をご覧ください。
- 「応急設定」は【ガスで給湯】に設定してください。

### お知らせ

- 長期間使用しなかった場合は、貯湯タンクにお湯があるときでも、給湯機器で沸かしたお湯を使います。

## ガス停止時にお湯を使う

- 貯湯タンクのお湯が少なくなっても、ヒートポンプユニットを運転して貯湯するため、引き続きお湯が使えます。
- 高温のお湯が出る場合があるため、給湯温度を40℃前後に設定してから応急運転をおこなってください。

### 手順

#### 1. 以下の設定について確認する

- 【暖房機能がある場合】

床暖房・浴室暖房換気乾燥機などの暖房運転を停止する。また、暖房予約をしている場合は、予約を解除する。

- ふろ洗浄運転をしている場合は、運転を停止する。
- 即湯運転をしている場合は、即湯運転を停止する。

#### 2. ON/OFFスイッチを「切」にして、「応急運転」の設定をする

- リモコン操作編の取扱説明書の「ユーザー設定」をご覧ください。
- 「応急設定」は【電気で給湯】に設定してください。

### お知らせ

- 貯湯タンクのお湯が不足しているときに、お湯を出すと、「ピピピ」と鳴ってお知らせします。(音量「0」ではお知らせしません)その場合はお湯の使用をやめ、貯湯タンクの量が目盛2以上になるまで待ってください。
- 貯湯タンクのお湯がなくなると、冷水が出るのでご注意ください。
- 長期間使用しなかった場合、リフレッシュ運転モードに入ることがあります。リフレッシュ運転が完了するまで、貯湯タンクのお湯は使えません。

## ガス停止と停電が同時に起きているときに、お湯を使う

- 非常用電源(P15)が必要です。
- ヒートポンプユニットに電気を供給できる非常用電源の場合は、貯湯タンクのお湯が少なくなっても、ヒートポンプユニットを運転して貯湯するため、引き続きお湯が使えます。

### 警告



非常用電源に接続する前に、機器の損傷や水漏れがないことを確認する

必ず守る 思わぬ事故の原因になります。

### 手順

1. 非常用電源から、給湯機器の電源と貯湯ユニット・ヒートポンプユニットの電源(P2)に電気を供給する
  - お使いの非常用電源によっては、電源のつなぎ替えが不要な場合があります。非常用電源の取扱説明書をご確認ください。
2. P16「ガス停止時にお湯を使う」の操作をする

停電が復旧したあと、引き続きお湯を使うとき  
電源のつなぎ替えをした場合は、非常用電源から通常の電源に戻す **ぬれた手でさわらない**

ガスが復旧したあと、引き続きお湯を使うとき  
【ガスで給湯】の応急運転に切り替えるため、P16「停電時にお湯を使う」の手順2をおこなう

### お知らせ

- 貯湯タンクのお湯が不足しているときに、お湯を出すと、リモコンで「ピピピ」と鳴ってお知らせします。(音量「0」ではお知らせしません)  
その場合はお湯の使用をやめ、貯湯タンクの量が目盛2以上になるまで待ってください。
- 貯湯タンクのお湯がなくなると、冷水が出るのでご注意ください。
- 長期間使用しなかった場合、リフレッシュ運転モードに入ることがあります。リフレッシュ運転が完了するまで、貯湯タンクのお湯は使えません。

(つづく)

## 電気・ガスが復旧したとき

### 手順

1. 電源のつなぎ替えをした場合は、給湯機器の電源、貯湯ユニット・ヒートポンプユニットの電源(P2)を通常の電源に接続する

ぬれた手でさわらない

2. 「応急運転」の設定を「切」にする

- リモコン操作編の取扱説明書の「ユーザー設定」をご覧ください。

## 応急運転でお湯を使用中に、電気機器を非常用電源に接続して使うときのコツ

- 非常用電源の運転が停止してしまう場合は、電気機器の使用を中止して、消費電力を減らしてみてください。
- 電気機器の運転開始時は大きな電流が流れるため、電気機器が使用できない場合があります。

## 断水したときは

- 気温が低く凍結のおそれがあるときは、P11「長期間使用しないとき(水抜きのみ)」をおこなってください。

## 断水後や給水元栓を長期間閉めていたあとは

- 以下の手順で、貯湯ユニットの水張りをしてください。
- 断水して、P11「長期間使用しないとき(水抜きのみ)」をおこなった場合は、P13「水抜き後の再使用のとき(水張りのみ)」をおこなってください。

### 手順

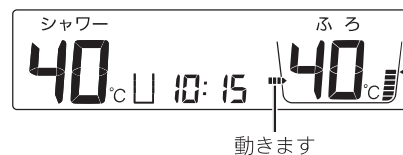
1. 【給水元栓を閉めていた場合】貯湯ユニットの給水元栓を開ける
2. 台所リモコンで「貯湯ユニットの水張り」の設定をする

- リモコン操作編の取扱説明書の「ユーザー設定」をご覧ください。

(水張り中の台所リモコンの表示例)



(水張り中の浴室リモコンの表示例)



- 浴槽の循環アダプターから水が出たり止まったりしますが、異常ではありません。

### 貯湯ユニットの水張り中は、その他の操作をしないでください

その他の操作をすると、貯湯ユニットの水張りには中止され、故障表示「009」を表示する場合があります。

その場合は、いったんON/OFFスイッチを「切」にし、「入」にしてから、「貯湯ユニットの水張り」の設定をやり直してください。(水張りが中止された状態では、機器が正常に運転しません)

## 断水時に貯湯タンクから水(お湯)を取り出す

### 3. 手順2の操作から20分以上経過後、リモコンの水張り中の表示が消えていることを確認する

- 【リモコンに3桁の英数字が点滅している場合】  
P26「リモコンに3桁の英数字が点滅しているとき<故障表示>」を確認し、必要な処置をしてください。そのあと貯湯ユニットの水張りをやり直してください。

### 4. 給湯栓を開け、水が出ることを確認してから閉め、機器や配管から水漏れがないかよく確認する

- 断水時に、貯湯タンクの水(お湯)を取り出して雑用水として利用できます。

### ⚠注意



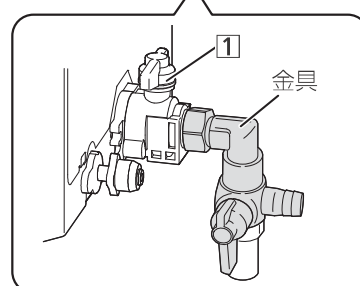
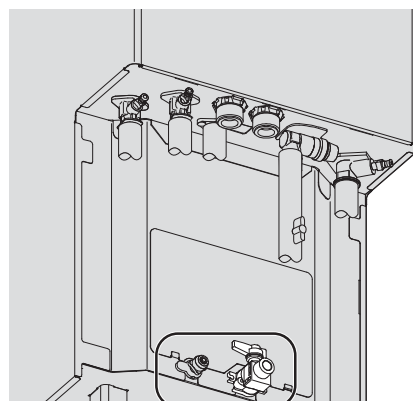
必ず守る

断水時に貯湯タンクから水(お湯)を取り出す場合は、貯湯タンクのお湯が高温になっていることがあるので、気を付けて作業するやけど予防のため。

### 手順

1. ON/OFFスイッチを「切」にする
2. 給湯機器の電源プラグを電源コンセントから抜き(またはブレーカーを「切」にし)、貯湯ユニットとヒートポンプユニットの電源(P2)を切る  
**ぬれた手でさわらない**
3. 給水元栓を閉める(給水元栓の位置→P9)
4. 排水バルブ①の先に金具がついているか確認する

- 金具の有無によって操作が異なります。



必要なとき

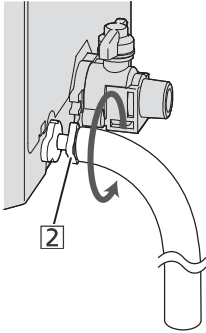
### お知らせ

- 水張り中、お湯を使わなくても給湯機器が燃焼する場合がありますが、異常ではありません。

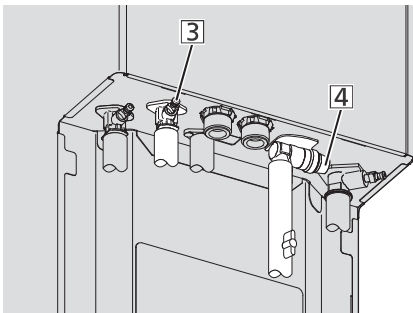
(つづく)

### 金具がついていない場合

- ①市販のホース(内径15mm)を水抜き栓②に差し込む
- ②水抜き栓②を左に回してゆるめる(貯湯タンクの水(お湯)が出ます)  
※水抜き栓②は取り外さないでください。(取り外すと、ホースも外れます)

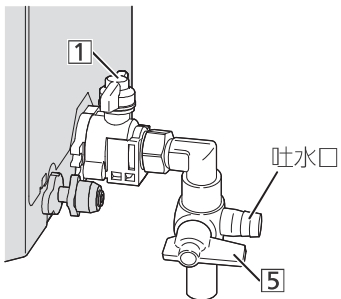


- ③水の出をよくするため、水抜き栓③④を左に回して外す



### 金具がついている場合

- ①吐水口から水(お湯)が出るため、ホース(内径15mm)を接続するか、水(お湯)を受ける容器を準備する
- ②バルブ⑤を吐水口と平行になるように回す
- ③排水バルブ①を手前に回して開ける(貯湯タンクの水(お湯)が出ます)
- ④水の出をよくするため、水抜き栓③④(位置は上記「金具がついていない場合」参照)を左に回して外す



### ハイブリッド給湯機を再使用する時

- ①P19の手順1~4と逆の手順をおこなう
- ②P13「水抜き後の再使用のとき(水張りのしかた)」の操作をおこなってから使用する